

法語

如来、世に興出したまうゆえは、
ただ、弥陀本願海を説かんとなり。

(『正信偈』)

お読みください

同封した冊子は、2014年5月17日に千葉市民会館で行われた「千葉組宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要」での海法龍師の法話を文章にしたものです。当寺からは25名が参加しました。以下は、その一部分です。

花まつり

題字下の法語は、毎日お勤めしている『正信偈』の一節、「如来所以興出世 唯説弥陀本願海」(『真宗大谷派勤行集』8ページ)の書きくだし文です。

この「如来」は、お釈迦さまのことです。

親鸞聖人は、お釈迦様がこの世に登場されたのは、阿弥陀仏の「本願海」ただ一つを説くためであると、仰っているのです。

「本願海」について古田和弘先生は、「本願」という言葉に、親鸞聖人は「海」という字を添えておられます。それは、どのような人もすべて浄土に迎え入れたいとされる阿弥陀仏の本願

が、海のように広く深い願いであることを印象深く表現されているのだと思われれます。」と述べています。(『正信偈の教え 上』106ページ)

親鸞聖人は、この阿弥陀仏の「本願海」に出会い生きる意欲を回復されたのでした。そこで、それを説いたお釈迦様を讃えておられるのです。

「花まつり」では、皆さんでこのお釈迦さまの恩徳を讃えましょう。

なお、2・3ページにお釈迦さまの誕生から出家までが掲載してあります。



天上天下唯我独尊

「人類史上始まって以来の、私、あなたということですね。お経の中に「盲亀浮木」という譬えがあります。大きな海の中で、亀がずっと水面へ上がっていくのです。亀が水面に顔を出したら、流木があつて、それにポンと当たったのです。

それほど私たちが人として生まれてくることは稀有である。当たり前ではない存在だということ。だからそこに何かあるかという、尊さがある。もう一つ言うならば、そこに重さがある。もう一つ言う、そこに存在の深さがある。「唯我独」というのは、「だれでも」ということです。ですから天上天下唯



我独尊とは、いつでも、どこでも、だれでも、その存在は尊重されるべき存在ということ。人間は尊重されなかつたら、心は冷たくなります。尊重されないと、自分の居場所がなくなつてしまうからです。不安定になります。そうするとどうなるかというと、恨みが出てくるわけです。家の中で尊重されない人がいたら、恨みを持っていて思ってくださいね。その恨みは、力の強い人間からおさえられている時は潜んでいます。その力の強い人間が弱くなると、逆転して暴力となつて噴出します。それが家庭の中の虐待の問題として出てくるのです。そういう問題から、私たちがどこに立つて生きているのかということが問われてくるのだと言つていいと思います。」

天上天下 唯我独尊

この言葉は、お釈迦さまが誕生した時に「私は世界のうちで最勝のものである」と宣言した偉人伝説として伝えられています。

しかし、私たち一人ひとりの存在の意味を教える仏法と受けとめた時に、この言葉は生きてはたります。

聞法生活は、これは「自分のことであつた！」と発見する歩みです。

誕生

夏も冬も インドの北の高い山には、まっ白な雪が積もっています。その山のふもとふもとに美しい川が流れ、川の流れにそって人びとが楽しく暮らしていました。

そこは『シャカ族』とよばれる人たちがつくっていた小さいけれども幸せな国でした。

今から二千五百年ほど前の四月八日、ルンビニーの花園で太子さまがお生まれになりました。

太子さまは生まれるとすぐ七歩あるかれ、右手で天を指さし左手で地を指さして「天上天下唯我独尊」と、声たからかに言

われました。

後に世界の人たちから『ほとけさま』と拝まれるようになった『おしやかさま』のご誕生です。

王さまは、『シツダルタ』と名前をつけました。「どんなことでもなしとげる」という王さまの願いのこもった力強い名前です。

山からおりてお祝いに来た仙人は、太子に三十二のすぐれたしるしがあるのを見つけてきました。そして「とても立派な王さまになられます。だがもしお坊さまになられたら世界の人びとを幸せにする尊いお方とされるでしょう。」と太子の未来を占いました。

王さまは大喜びです。けれども「お坊さまになるよりインドで一番偉い王さま、大王になってほしい。」と王さまは思いました。

王宮生活

お母さまは、太子が生まれてから七日目にお亡くなりになりました。

しかし優しい叔母様さまの力で太子は、すくすくと育ちました。

楽しい春がきました。お百姓さんの野良仕事も歌声とともに弾みます。

七つになった太子は、多くの大臣といっしょに「春まつり」を見ました。その時、

土の中から掘りおこされた一匹の虫がピクツと動きました。その虫をどこからか飛んで来た一羽の鳥がくわえて飛び去ったのです。するとどうでしょう。その鳥を獵師が弓で打ち落とそうとしているではありませんか。「どうして生きものどうし、みんなが殺し合わなくてはならないのでしょうか。太子は大変悲しそうな顔をしました。」

「太子は、優しい心をもっている。情け深い王になるだろう。しかしお坊さまになるかもしれない・・・」。王さまは、ちよっぴり寂しくなりました。

お坊さまになるためには、城を出て修行をしなければなりません。城を出られては大変です。

王さまは、春と夏と雨の時の三つの御殿を建てて毎日のような楽しい暮らしをさせました。

太子も、お父さまの言い付けを守って国が立派になるよういろいろな勉強をしました。そして太子は立派な若者になりました。

「やあい、きれいな御殿に住んでいる弱虫のシツダルタかかってこい」。いじわるな従兄弟ダイバダツタが相撲をしようと大きく手を広げてかまえています。

今日は近くの国の王さまがお姫さまの婿選びをする日です。王さまは「一番強い男に姫をやろう。」と言うのです。

「よし おれがもらった」。暴れるゾウを倒すほどの力持ちダイバダツタは、自信満々です。

「もう 見ていられない」。城の門の高台から広場を見ていた太子のお父さまは、手で顔をかくしました。

ズシーン。

大きな音でお父さまが手をはなした時、そこには強いはずのダイバダツタが転がっていました。

そして、太子はきれいなお姫さまと結婚しました。かわいい赤ちゃんも生まれ楽しい幸せな毎日をおくりました。

四門出遊

しかし、だんだん太子は城に籠もり、毎日静かに考えこんでしまうようになりました。

ある日、王さまは「本読みばかりしていないで一度、城の外に出てみては」と、太子に言いました。

太子は初めて城の東の門から町に出ました。すると杖をついて腰をまげ、ふらふらと歩いてくる皺だらけのお爺さんを見ました。「かわいそうに。あの人はどうしてあんな姿になってしまったのだ」とお供に聞きました。「太子さまも私もみんな年をとると、あんなふうになるのです」。

つぎに南の門から出ました。そこで、道

ばたで苦しんでいる病気のお婆さんを見ました。

三番目に西の門から出ました。そこで、泣きながら歩く葬式の列を見ました。「人間はみんな年をとって病気になって死んでしまうのか・・・」と、太子は深く考えこみました。

最後に北の門から出ました。太子は、今までに見たお爺さんのこと、病気のお婆さんのこと、葬式のこと、病気がお婆さんません。「どうすればこの人たちを助けることができるだろうか」。

遠くからお坊さまが歩いてきました。お坊さまは、穏やかな顔で立っています。たった一枚の粗末な衣を着ているだけです。

しかし、きれいに飾った絹の服を着ている人たちよりもずっときれいに気高く太子には見えました。

太子は お坊さまの姿に強い憧れをもちました。けれどもお坊さまになるためにはお姫さまや赤ちゃんとも別れ王さまになることも棄てなければなりません。

太子は悩みました。そして王さまと相談をしました。

「これは 大変だ」。王さまは、太子が城を出ないように五百人でも開けられない鍵をかけ城の門を閉めました。

城に籠もれば籠もるほど太子は「王さまになつて国を栄えさせることも大事だが、

人間の苦しみや悩みを救う道を見つけないと、もつと大事なことだ」と深く心に刻みました。

出家

二十九才のある晩、太子は寝ている王さまやお姫さまや赤ちゃんに、心の中でお別れをし、白馬カントカにまたがり、城を出ました。付いて来るのはお供一人です。

森の中に入ると冠やきれいに飾った服をお供に渡し、自分の髪の毛を刀で切りました。最後まで修行をやり遂げるといふ強い決心です。お共は泣いて一緒にいたいと訴えました。お共は泣いて一緒にいたいと訴えました。

城に帰ったお共の話で、城の中は大騒ぎになりました。でも、太子を深く愛していらつしやる王さまは、太子が生まれた時の仙人の話の思い出し、五人の家来に「一緒に修行して太子を守るように」と命令しました。

絵本『おしやかさま』（東願寺出版部）から引用しましたが、読みやすくするために適宜ひらがなを漢字に改め章題を付けました。

絵本は、苦行・降魔・成道・転法輪・涅槃と続きます。

春彼岸会

お彼岸中のお墓参りは、日本人が大事にしてきた風習です。

亡き人たちを偲ぶ非日常的なこの行為により、私たち仏教徒は「お浄土」の世界に触れ、生きる力を回復しているのです。

仏法を聴聞し、「天国」とは全く質の違う「浄土」に照らされ生きる自分をいただきましょう。そもそも「彼岸」とは、「浄土」のことです。

日時 **3月20日(日)春分の日**

10時から11時30分

法要 正信偈など同朋唱和
法話 釋泰昌(井上泰之) 副住職
持物 念珠・門徒章

※護持金は、本堂の受付に
お願ひします。



2014. 5. 17
千葉組御遠忌法要
千葉市民会館



花まつり

赤ちゃんからおとしよりまで、短い時間ですが、いっしょにすごしましょう。

日時 **4月3日(日)**

午後1時30分～3時30分

内容 お釈迦さま像に甘茶をかけ礼拝します。
そのほか点茶など
お楽しみに!



※3月27日までに参加
をお知らせください。

親鸞教室

—和讃をいただく—

晩年の親鸞聖人が、仏法讃嘆と人々に読みやすく分かりやすくご唱和しやすきを願いととして、詠われたのが御和讃です。

そのお心をいただきながら聖人のみ教えを聴聞しましょう。



講師 長願寺住職
海法龍先生

会場寺院ですので、ふるってご参加ください。

日時 **5月19日(木)**

午後1時～4時

(受付 12時30分)

参加費 1000円

参加者募集

この教室は、千葉組主催の聞法会です。

千葉県内の寺々を会場に開催されます。富楽里や岩井駅で待ち合わせ、住職といっしょに赴き、聞法します。

行事予定

- 3月20日 10時～ 春彼岸会
 - 4月3日 13時30分～ 花まつり
 - 5月8日 14時～ 同朋の会
 - 5月19日 13時～ 親鸞教室
 - 6月3日 東京教区同朋大会
 - 6月5日 9時～ 八日講十日講
 - 6月10日 同朋の会
 - 6月14日 婦人研修会
 - 6月15日 千葉組同朋総会
 - 6月26日 8時30分～ 奉仕作業
 - 7月17日 14時～ 同朋の会
 - 8月10日 10時～ 孟蘭盆会
 - 9月22日 10時～ 秋彼岸会
 - 10月9日 14時～ 同朋の会
 - 10月23日 13時30分～ 世話人総会
 - 11月15日 13時30分～ 仏具磨き
 - 11月18日 報恩講 準備 速夜
 - 11月19日 報恩講 晨朝・日中
- ※：以外は当寺が会場です。

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

メール info@syozenji.or.jp

URL http://syozenji.or.jp/

住職 釋孝昌(井上孝昌)